

# バチカンでのハプニング



旭川市医師会  
大雪病院

豊田 馨

毎年、年男の『新春随想』が掲載されています。今年は年男なので「当たるかな？」の予想がありましたが、案の定当選したようです。

今年で84歳になります。種々故障しましたが、大修理のおかげで元気になり、まだ週3回外来勤務しています。何か新しい記事をと模索しましたが、特別なものもなく、古い記憶を思い出しましたので、原稿の責めを果たします。

昭和60年（1985）旭川大町カトリック教会の設立35周年記念「聖地巡礼ツアー」に参加しました。その4年前に、妻 禎子が交通事故（車でトラックと正面衝突）で脳挫傷を生じ、何とか生き返りましたが、右半身不随と失語症の障害が残り、リハビリ中でした。奇跡的に信仰心は失われず、毎週日曜日には教会でミサを受けていました。

まだリハビリ中で、世界旅行は無理だと思っていましたが、別のルーテル教会の後藤憲太郎さん（元道薬剤師会の副会長、元三浦記念館館長）の奥様が多発性関節リウマチで車椅子参加されるとのことで、私どもも参加することにしました。

教会の聖地巡礼は、当時、札幌等の教会で毎年行われていましたが、ほとんど11月でヨーロッパではオフシーズンで費用が安く、混雑もなく、良い旅程なのです。ただし、フランスは結構寒く、旭川の冬装備であればOKです。青木神父ほか37名の大参加でした。

最初に、ピレネー山脈のふもとにある「ルルド」へ直行です。ここには奇跡の泉という聖水が出るところで水浴の設備があり、水浴すると難病が治癒すると言われていました。まず、家内の水浴をお願いしました。

次の旅程はローマです。バチカンでのローマ法王の謁見は毎週水曜日に行われており、この日は世界各国から集まった信者が大きな会場を埋め尽くします。バチカン正面のひろばの左側に謁見会場があります。通路の両側に例のリスの制服を着たスイスの親衛隊士が並び、一応、目視のチェックをします。中に入ると突然二人の隊士に導かれ、中央の通路から正面に出た右側の祭壇すぐ下に並べさせられました。車椅子の人は10人ぐらいが並んでいました。付き添いの人は車椅子の後ろに立って並び、後藤さん夫妻が私の左隣りでした。要するに、車椅子の人の

ための最前列の特別席だったのです。

会場は、一万人は収容できるといわれる大会場で、柱一本もなく、正面には5段重ねの大祭壇がありました。参加者はあらかじめ登録し各国別に分けられた指定席に着席します。

やがて、白い法衣をまとった法王ヨハネ・パウロ2世が中央通路に現れ、左右の群衆のハイタッチに応えられます。

次に、最前列の左右の前でもハイタッチされ登壇します。司会の枢機卿が本日集会された各国の紹介を、その国の言葉でスピーチします。起立して手を振る国、コーラス合唱する国、ブラスバンドで対応する国など多彩であります。日本語で青木神父ほか37名と紹介されました。ミサが終了した後、われわれの並ぶ最前列に来られた法王は、一人一人の頭に両手をさしのべ祝福され、私にも手をさしのべ「どこから来ましたか」と尋ねられました。あまりにもハプニングで感激し、英語か日本語で言われたか覚えていませんが、「ジャパン」と反応だけはしました。

世界各国から集まった信者の中で法王に直接謁見するなどは、妻 禎子の車椅子姿のお陰だと思えます。

謁見の写真は、法王庁の専属カメラマンが種々の方面から激写してくれて、夕方には宿泊のホテルに届けてくれます（有料です）。

なお、1993年（平成5年）に第2回目の巡礼でバチカンでの謁見でも、同様に車椅子で再びヨハネ・パウロ2世にお会いできました。このときの付き添いは、長年家内の専属介護をしてくださっていた多喜さんをお願いしました。次にイスラエルに行き、聖地「エルサレム」に入り、死海にも入りました。

あれから20年、法王も、青木神父も、家内も、後藤夫妻も、多喜さんも、既に天国に召されています。今は、警備や種々の関係でどのような謁見になっているか分かりませんが、バチカンに行くなら、ぜひ車椅子状態で行ってください。

私はもう少し長らえて、東京オリンピックをテレビで観ようと頑張っています。

皆さん、今年もガンバリましょう。

